

マナーのツボ

「ダメもと」の頼みごと



「ダメもと」という言葉があります。「ダメでもともと」を略した言葉です。「ダメもと」で難しい頼みごとをして、案の定断られてしまった経験のある人は多いのではないのでしょうか。

頼まれた相手は断るとき、申し訳ない気持ちを感じるもの。だからこそ頼んだ側は「無理を承知のお願いでした。どうかお気になさらず」など、さりげとお礼を述べましょう。間違っても「なぜ」「どうして」と詰め寄ったり、未練がましくしたりしないように。相手の罪悪感を少しでもなくすべきだからです。

「最初から無理だとは思っていい

頼む側も断る側も気遣いを

ました。大丈夫です」という言い方は、ぞんざいで失礼な言い方です。思い通りにならないときこそ、潔く引き下がり、深みのある言葉を選ぶことが重要です。

反対に、相手の依頼を断る場合、「お役に立てず申し訳ございません」というフレーズがあります。

そのほか「誠に不本意なのですが」「よく考えさせていただきましたがどうしても」など、角が立たず表現を柔らかくする「クッション言葉」も使しましょう。

はっきりと断りつつも、依頼に対して誠実に向き合い、相手の気持ちに寄り添う姿勢は次につながります。お付き合いは今後も続くわけですから、依頼する側も断る側も、お互い相手を気遣う気持ちが必要です。ただし「ダメもと」は、ビジネスシーンでは使わないようにしましょう。

(ビジネスマナー講師

美月 あきこ)